

男 1  
女 1  
男 2  
女 2  
男 3  
男 4

## 影

舞台上、後方にベンチ。上下に一人掛けの椅子

客入れ

照明、ゆくつりと暗転

音楽

ベンチに男1と女1が座っている

照明、ゆつくりとベンチを照らす

男1は苦しそらに眠りに落ちている

女1は前方を見ている

紙吹雪

ゆつくりと暗転

照明、ゆつくりと照らす

男1、落ち着かない様子で、だがゆつくりと舞台上を歩いている

男1、携帯電話を取り出し、掛ける

男1

もしもし。私だ。

悪いが、房子に代わってもらえないか。

∴

もしもし。私だ。

すまないが、急用ができてしまってね。

急だが、これから東京に行かなければいけなくなってしまうた。

うん。

そうだね。

今日は向こうに泊ることになるね。

::  
うん、帰るのは無理だよ。  
とてもじゃないが、最終便に間に合いそうもない。  
::  
うん、そういうことで。  
うん、医者に来てもらった？  
そうか。  
それは、神経が衰弱してるに違いない。  
そうだね。  
ゆつくり休むのが一番だ。  
うん。うん。  
分かった。  
おやすみ。

女2、男1の台詞、「帰るのは無理だよ」付近で登場。無言で上手側の椅子に座る

男1 ::  
女2 ::  
どうかされましたか。  
男1 いや。  
何も。  
女2 そうですか。  
男1 どうして。  
少し、落ち着かない様子だったもので。  
男1 そんなことはないよ。  
女2 そうですか。  
男1 ああ。  
女2 ::  
男1 ::  
女2 奥様ですか。  
男1 そうだね。  
女2 今日はこれから東京に。  
男1 そうだね。  
女2 随分と急なお話ですね。  
男1 急な話だったんだ。  
女2 ::

女2、不敵な笑み

男1 何かおかしいかい。

女 2 いえ。

男 1 ∴

女 2 ∴

男 1 最近君は、家内と同じような服をよく着ているね。

女 2 お嫌いですか。

男 1 趣味が変わったのかな。

女 2 それは、服の。∴男の。

男 1 ∴

女 2 こういった服の方が、社長に気に入ってもらえるかと思つて。

男 1 ∴

女 2 社長。

社長はいつ、私に指輪を買つてくださるのかしら。

男 1 君のその指輪がなくなつたら。

女 2、指輪を外し、男 1 に放り投げる

女 2 それじゃあ、今夜買ってちょうだい。

男 1、床に落ちた指輪を拾う

女 2 その指輪は護身用なの。

男 1 ∴

男 3、登場

男 3 社長、宜しいでしょうか。

女 2 ∴

男 1 ∴

どうぞ。

男 3 失礼します。

男 3、男 1 の視線の先を見て、立ち止まる。

何かしらの思いはありながらも、無表情に社長の方へ

男 3 社長宛の手紙が参りました。

男 1 誰から。

男 3 書いておりません。

男 1 そうか。

男 3、男 1 に手紙を渡し、退場

男 1 　　：  
女 2 　　読んで。  
男 1 　　何故。  
女 2 　　知りたいの。  
　　　　　その手紙に何が書いてあるのか。  
男 1 　　私宛に届いた手紙だが。  
女 2 　　だからこそ。  
男 1 　　わかった。

男 1、手紙を読む

男 1 　　拝啓  
貴方のご夫人が、貞操を守っていないことは、再三において忠告申し上げてまいりました。  
貴方が、今日にいたるまでなんら断固たる処置をなさらないのか。  
今後も夫人と離婚というかたちにならないのであれば、貴方は万人の笑い物となることでしょう。  
敬白。  
貴方の忠実なる女より。

4

女 2 　　優しい友達がいるのね。  
男 1 　　：  
女 2 　　ねえ。聞いて良いかしら。  
男 1 　　：  
女 2 　　奥様を殺したいと思ったことはある。  
男 1 　　どうだろうね。  
女 2 　　：  
男 1 　　：  
女 2 　　私は貴方を殺したいと思ったことがあると思う。  
男 1 　　どうだろうね。

女 2、男 1 に近づき首を絞める  
手を放す

女 2 　　なんてね。

女 2、退場

男 1 　　：

男1、電話を掛ける

男1 今西君かい。私の部屋に来てくれないか。

男3、登場

男3 今西です。

男1 どうぞ。

男3 何でしょうか。

男1 今日は、私はこれから帰ろうと思います。  
後のことをお願いしても良いかな。

男3 分かりました。

男1 先方には、上手いこと言っておいてください。

男3 はい。

男1 じゃあ、よろしく。

男3 はい。

男3、退場

男1、電話をかける

男1 もしもし。

ええ。私です。

今日は、誰か私の家に来ましたか。

医者。

その他は。

そうですか。他は誰も来ませんでしたか。

もちろん、房子も外に出ていないんですよ。

分かりました。

すみませんが、今日は私が帰るまで、そのまま見てもらえますか。

もし、だれか来たら、すぐに連絡をいただけますか。

ええ。よろしく申し上げます。

男1 ∴

男1、退場

照明、暗転

舞台上、下手側の椅子に女1が座っている

照明、ゆっくりと明るくなる

女 1    ∴

男 4、登場

男 4    奥様、お薬でございます。

女 1    ありがとう。

女 1、薬を飲む

男 4    旦那様は、今日もお帰りにならないんでしょうか。

女 1    そうなの。

男 4    お寂しいことですね。

女 1    ええ。

でも、仕方ありませんね。

男 4    せめて奥様が二病気がなければよろしいのですが。

女 1    大丈夫よ。

私は単に、神経が弱ってるだけだつて。

先生もそう言つてたし。

ゆっくりと眠ることが大事だつて。

∴

女 1、舞台後方に窓がある設定で、窓を見て恐怖する

女 1    ∴

男 4    奥様、どうされましたか。

女 1    いえ。

何でもないの。きつと何でもないの。

∴

今、窓の外から、この部屋を、誰かが見てる様な

男 4、窓の外を見る

男 4    誰もいないようですね。

少し風が強くなつてきたようです。

きつと、木の葉が揺れたのが、その様に見えたのでしょうか。

女 1    ∴

きつとそうね。

そうだわ。きつとそうよ。

男 4 ::  
何かありましたら、すぐにお呼びください。  
なんでしたら、警察に連絡して、家の周りを見てもらうように、言いましょうか。

女 1 大丈夫。  
きっと私の勘違いでしょう。

男 4 ::  
女 1 もしかしたら、私はこのまま気違いになってしまうのかもしれないね。  
男 4 ご冗談を。

女 1 ::  
男 4 ::  
女 1 冗談ではありませんね。

この頃、私は1人である時に、常に誰かの視線を感じるの。  
常に誰かが私の後ろに立って、じつとわたしを見てるように感じるの。  
その視線は、恐ろしい時もあるし、そうじゃない時もある。  
その時その時で、違うが人の様な気もする。

::  
恐ろしかった時、一度 声を出そうとしたけど、何故か、声が出せなくて。  
::

女 1、自分で自分の身体を抱きしめ、震える

女 1 きっと私は、このまま気違いになってしまうのだね。

男 4 ::  
誰かに見られてる様な気がするときは、誰にでもごぞいます。  
奥様は、お疲れになられてるんです。  
早めにお休みになられた方が。

女 1 ::  
そうね。  
先生もおっしゃっていたし、休まないかね。

男 4 はい。

女 1 ありがとう。  
話を聞いてくれて。

男 4 いえ。

女 1 話して、少し落ち着いてきました。

男 4 ::はい。

それでは、私は。

女 1 ええ。おやすみなさい。

男 4 失礼いたします。

男 4、退場

女 1     ∴

女 1、窓の外を見る

椅子に戻る

自分が指輪をしていないことに気づく

女 1     どこかに落としたのかしら。

暗転

照明、ゆつくりとベンチを照らす

ベンチには男 3 が座っている

男 3、電話をかける

男 3     もしもし、今西です。

大変申し訳ない話なのですが、社長が、ちよつと体調を崩してしまい、

ええ、ええ。

さう言つていただければ助かります。

ええ、ええ。

さうですね。後日という方向で。

ありがとうございます。

ええ、ええ。ありがとうございます。

それでは失礼いたします。

男 3、電話を切る

男 3、懐から写真を取り出し、見る。狂つたような、優しい様な笑顔

暗転

舞台上、下手側の椅子に女 1。上手側に男 1 が立っている

照明、上手

男 1、手紙を取り出し、読む ↓ しまふ

男 1、電話をかける

男 1     もしもし。

ええ、私です。

何か変わったことはありませんか。



そうですか。  
ええ、家の近くです。  
あなたがどこで見ているのかはわかりませんが、  
私のことを確認できましたか。  
そうです。  
私以外の人間が家に近づいたりはしてませんでしたか。  
そうですか。  
分かりました。  
それでは、今日はもう結構です。  
ええ。  
そうですね。  
よろしく願います。

男1、電話を切る

男1、後ろを気にする

男1 誰がいるのか。

男1、歩き出す

暗転

照明、ぼんやりと下手

椅子には女1が座っている

照明に見切れるくらいで男2が立っている

女1 ::

誰。

誰がいるの。

男2 ::

男2、照明の中に入る

女1、驚くが、瞬時に全てを受け入れる

女1、目を閉じる

男2、女1の方に近づき、首を絞める

照明、暗転

照明、上手側

男1、前方上を見て、驚く

男1、電話を掛ける

男1 もしもし、私だ。  
本当に誰も、家には近づかなかったのか。  
だったら、誰なんだ、あの男は。  
房子の部屋に立っているあの男は誰なんだ。  
もう良い。

男1、電話を切り、前方へ歩く

こつそりと見る

男1 どういうことだ。  
あれは、…俺だ。

男1、立ち尽くす

自分の手を見る

暗転

照明、下手

女1、床に伏せている

女1の上、女1の首を絞めている男2

照明、暗転

照明、ベンチ

ベンチには男3が、憎悪に満ちた表情で座っている

おもむろにパソコンを打ち始める

男3 拝啓

貴方のご夫人が、貞操を、守っていないことは、再三においてご忠告申し上げてまいりました。

そして、また、貴方が、断固たる処置をなさるようにも、再三において、ご忠告申し上げてまいりました。

しかしながら、貴方は、溺愛のあまり、誤った方向に貴方自身の舵を取ってしまいました。残念で仕方がありません。

この上は、

敬白。

貴方の忠実なる友より。

男3、懐から写真を取り出し、見て、握りつぶす

暗転

照明、下手

舞台上、伏せている女1。首を絞めている男1  
手を放す

男1、女1を抱きかかえる

男1 先ほど、通りで感じたのも  
この部屋に立っていたのも  
房子の首を絞めていたのも  
お前だったのか。  
お前だったのか。  
お前は、…私だったのか。

男1、女1を静かに床に戻す

紙吹雪

男1 何てことを。  
何てことを。  
∴  
私は何てことを。  
私が、私が、私がお前だったのか。

男1、叫ぶ

暗転

照明、ベンチ

ベンチには、男1と女1が座っている

男1は寝ている

女1は前方を見ている

男1が目を覚ます

男 1 :  
女 1 大丈夫ですか。  
男 1 :  
女 1 どうしました。  
男 1 いや。  
すまない、寝てしまっていた様だ。  
女 1 大分お疲れのようですね。  
男 1 すまないね。なかなか家にも帰れず。  
女 1 しょうがありませんわ。  
でも、時間がある時は、こらやつて、一人で散歩して下さります。  
私は、それだけでも、嬉しいことですよ。  
男 1 :  
女 1 房子。  
男 1 はい。  
女 1 いや。  
男 1 どうしました。  
女 1 おかしな夢を見ていた。  
男 1 おかしな夢。  
女 1 ああ。  
男 1 気を悪くしないで聞いてもらいたいんだが。  
女 1 はい。  
男 1 私が、いや、もう一人の私が、君の首を絞め、それを私が見ているんだ。  
でも、分からないんだ。  
確かに、もう一人自分の様な気もするんだが、そうじゃない気もする。  
俺の影が勝手に動いていたような。  
女 1 同じ夢なら、私も見たことがありますわ。  
男 1 :  
女 1 :  
男 1 :  
女 1 お互いに、影のことは、気にしないようにしましょうね。  
男 1 :  
女 1 ああ。  
男 1 そうだ。  
先日、貴方に渡した指輪。  
返していただけませんか。  
男 1 指輪。  
女 1 ポケットにしまったでしょう。

男 1、ポケットを探す。指輪がある

男 1、指輪を出す

算  
帳

丁